

東御市小学校長寿命化計画

国の文部科学省が2013年から始まる全国の「公立小中学校施設の長寿命化計画制度」の支援による、市立の全小学校を対象とした建物実態調査および年次計画の策定。市内の小学校は5校、いずれも1974～81年に建造され（RC造）、築後40年を経過し、耐震補強は完了しているが、設備面も含め部材の経年劣化も進行し、改修費用が年々増加して市の財政負担も大きくなり、安全面や機能面での課題を抱え、また農村地帯の自然災害時の避難場所としても重要な位置づけもあり、地域防災機能の強化も含め、子供達が学べる環境を確保するための長寿命化基本計画を策定した。検討にあたっては学校建築に詳しい長澤悟氏（東洋大学名誉教授）の助言を得て、市内教育関係者、父兄等を対象とした生涯学習講座を開催し、意見聴取も行っている。

	Aランク	Bランク	Cランク
田中小学校	体育館 ・備わ良好	廊下 ・全体的に傷、汚れが目立つが今後使用可能	トイレ ・全体的に傷、汚れが目立ち、臭気有り（換気不足）
滋野小学校	家庭科室 ・利用頻度の低い後援室、料理車を同室にしている	天井 ・一部にシミ、補修跡有り	屋上廻り ・一部に腐れ、壊れ、水溜り有り

市内小学校の現地調査記録（一部抜粋）

学校名	屋根 屋上	内部 仕上	便所	外壁	開口	外部	体育 館	給食 室	電気	給水 水	空調	ICT	次回 診断 時期
田中小	B	B	D	B	C	B	A	B	B	C	C	E	2021
滋野小	C	B	D	B	C	B	B	B	B	C	C	E	2025
津津小	B	B	D	B	C	B	B	B	B	C	C	E	2029
和小	B	B	D	B	C	B	B	B	C	C	C	E	2028
北御牧小	B	B	D	B	C	B	A	A	C	C	C	E	2026

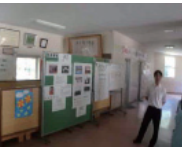
一見一別

A：概ね良好
B：傷、汚れが目立つが今後使用可能
C：改修を検討する必要がある
D：早急に改修する必要がある
E：新規項目

市内5校の現地調査およびヒアリングを照合した改修ランク

小学校トイレ改修設計監理

長寿命化計画の中で教職員・父兄の要望で、永年の課題であったトイレ改修を最優先し、国庫補助を受けて実現した。従来の「4K（臭い・汚い・暗い・怖い）」を解消し、現在の児童数にあった適正規模とし、段差解消によるユニバーサルデザインの実現、多機能トイレの設置、ゆとりの個室、断熱化・冬季暖房装置など、安心して利用出来る環境を整えた結果、それまで自宅に帰るまで我慢していた児童が、休憩時間や昼休みなどに積極的に利用するなど、健康上かつ学習意欲の向上などの効果が報告されている。



北御牧小のトイレ改修前

→手洗所の充実や、地場産材のラマツを内装に使用することで衛生面への配慮や心地よさの演出にも心がけている



北御牧小のトイレ改修後



北御牧小のトイレ改修前

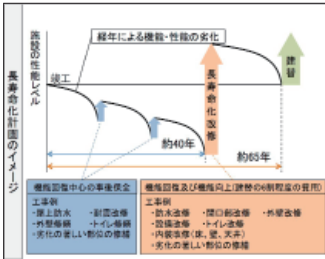
→機器更新に際し、段差解消のための乾式施工を採用し、配管スペース確保、冬季暖房器具設置などを行った



北御牧小のトイレ改修後



東御市内小学校位置図



長寿命化のイメージ



生涯学習講座「これからの学校づくり」の光景

経緯 東御市立小学校長寿命化基本計画「16.9～17.12、田中小学校・滋野小学校トイレ改修工事実施設計」「16.9～17.3、田中小学校・滋野小学校トイレ改修工事監理」「17.3～17.10、津津小・和小・北御牧小トイレ改修工事実施設計」「17.5～18.3、和小学校・北御牧小学校トイレ改修工事監理」「18.5～18.11、津津小学校トイレ改修工事監理」「19.7～19.12、諸元 所在地：長野県東御市 調査対象面積：5校計10,328㎡ トイレ改修床面積：5校RC造計1,314.3㎡ 施工：北澤土建（田中小）・東建工業（滋野小）・共栄建設（和小）・竹花組（北御牧小）・東部開発（津津小） 協力：長澤悟氏（教育環境研究所理事長） 担当：中野、清水、山本